opusdei.org

限りなく慈しみ深い 父である神

J. エチェバリーア著、 Itinerario de vida cristiana、 第一章からの抜粋。

2009/08/30

私たちは神の子です。福音書はこの 真理を明らかに述べています。た だ、残念ながら、この点に気付いて いない人が大勢います。神との父子 関係。神が私たちをイエス・キリスト における子になるようお呼びになる ということは、何物にも優る素晴ら しい現世の財産をも軽く凌駕する豊 かな宝物です。人々が神とのこれです。人々が神とのこれです。人であるな世界に自覚していった世界に世界には 要はいぶも思いが支配が支配が支配が支配が支配が支配がしまればでの。 を重にはといるはずであることをはがであることを自覚になるがであることを自覚になるはずであることをはずであることをもようになるがです。

神は私たちの父です。神はわたしたちの父です。神はわたりを与え、限りない愛情を知るで見います。私はの担理に見放されること、神の打理に見放きないではないではないできます。とができます。このとができます。というないできます。というないとができます。人々の生き方は真

に深い意味を持ち、超自然的な富と 人間的豊かさで満たされます。

避け得ない日常の些事だが型には まっていて値打ちなく平凡で単調と いうような思いは、消えてしまうこ とでしょう。家庭生活や仕事、日々 の義務などは、実は、神の贈り物で あり、人々のためによろこんで働く 機会であることに気づくのです。そ うなると、半分ファリサイ的、半分 ピュリタン的な態度をとって、厳し い神と正しい関係を保つだけで満足 するという、冷たくて萎縮した態度 をとる余地はありません。神との付 き合いが表面的になったり型には まったりすることもないでしょう。 神との父子関係を内的に深く理解す れば、神は絶えず傍においでにな り、私たちを思いやってくださる父 であることを自覚するならば、宗教 を先に述べたようなものと考えるは ずがありません。私たち各々の伝記 は父である神の愛情深い摂理と手を

携えて歩むのです。現実には歴史を 通して孤独な生き方をした人間など いません。神はつねに子供たちの傍 らにいて付き添ってくださるからで す。

私たちの頭では到底理解できないほ ど困難な状況になることがありま す。しかしその時でも、神の愛を疑 うことはできません。そのようなと きには、信仰が与えてくれる確実性 を頼りにして、イエスを見るべきで す。そのためにこそ、神は御子をこ の世に遣わし、わたしたちが神の子 となることができるよう、また、イ エスを眺めることによって神の愛の 深さが分かるようにと、お望みに なったのです。人間性をとって人間 の歴史の中に入り込んだ永遠の御子 の言葉と生涯を诵して、神が父であ ることをお示しになりました。キリ ストはその行いと言葉で御父を示 し、御父の限りない愛を見せてくだ さったのです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/kagirinaku-awaremifukai/ (2025/12/15)